

【特集】情報を伝え続けて73年 広報えべつ 1000号を迎えて

日頃より広報えべつをご愛読いただき感謝いたします。おかげさまで広報えべつは令和5年2月号で1000号を迎えることができました。

昭和25年に「町政だより」として始まり、「市政だより」に名称を変えながら市の情報を伝え続けてきた広報えべつ。今月号では1000号達成を記念して、1000号の歴史を振り返り、広報えべつを支えてくださった市民の皆さんへの感謝を込めて、特集をお届けします。

【詳細】広報広聴課 ☎ 381-1009

広報えべつは、これからも皆さんに、よりわかりやすく情報をお届けできるよう努めていきます。広報えべつに関するご意見や感想などがありましたら、広報広聴課へお寄せください。

▼ 郵送・ファクスで送る

〒067-8674 高砂町6 江別市広報広聴課宛

FAX 381-1149

▼ 市HPアンケートフォーム

市HP内「広報えべつ」を検索するか右QRコードを読み込んでください



紙面で振り返る 広報えべつ

70年以上の歴史がある広報えべつは、発行から今までどのような内容をお届けしていたのでしょうか。これまでの紙面とともに振り返ります。

はじまりは、昭和25年 江別が“町”だったころ…

広報えべつのはじまりは、江別がまだ人口約3万人の「江別町」だった、昭和25年に発行された「町政だより」でした。

第1号では、町長からのメッセージや町の予算などが掲載されていました。現在とは違い、新聞のようなレイアウトの紙面でした。



昭和29年 町から市に

昭和29年、人口が3万4千人を超え、市制が施行され、「江別市」となりました。「町政だより」から「市政だより」に変わり、「広報えべつ」に変わる昭和41年までの間、市の情報を届けてきました。広報えべつは、市政だより第1号から数えて、1000号を迎えます。「町政だより」と比べると、写真やイラストが多く使われるようになり、工夫が凝らされた読みやすい紙面へと変わっていきました。



昭和41年、 広報えべつ発行



318号として発行され、デザインも大きく変わりました。

昭和56年、500号達成



市のお知らせだけでなく、市民の活動の写真や市民へのインタビューなども掲載されるようになりました。

平成12年、表紙がカラー印刷に



表紙のデザインが変わり、一部カラー印刷も始まりました。728号では「焼きもの」についての特集が掲載されました。

広報えべつを伝えるかたち

「声と点字」

広報えべつには紙版だけでなく、音声版と点字版があることをご存じですか。これらは市内のボランティア団体の皆さんによって作られており、市の情報をより多くの人に伝えるために重要な役割を果たしています。

音声は「朗読ボランティアグループ まちの灯」、点字は「点字ろくの会」の活動です。それぞれの団体から話を聞きました。



「声で伝える」
朗読ボランティアグループ
まちの灯

どんな活動をしていますか

広報えべつや市の発行物などを朗読、録音をしています。

情報図書館の録音室や自宅で、専用の機械を使って録音します。広報えべつは、会員約50人のうち、12人が担当しています。

広報えべつのはじめの原稿が出来上がってから録音するまでの期間は10日程度。毎月28ページ程度の内容を担当に分かれて録音、編集し、CDを作成しています。CDは、利用者さんへ郵送しています。

市の発行物のほかにも、独自で企画と取材をして制作している「タウン江別」という生活情報誌も録音しています。市内の飲食店の紹介もしているため、利用者さんからは人気も高く、楽しみにしてもらっています。



活動の魅力は何ですか

「何かボランティアがしたい」「誰かの役に立ちたい」「本を読むのが好き」などの理由で、活動を始める方が多くいます。「利用者さんに良いものを届けたい」という目標を持って、仲間と楽しく活動できるのが魅力です。つらいことがあっても、同じ目的を持った仲間がいるから頑張れていると思います。また、活動を始める前には

半年間の講習を受けることが出来るのも魅力です。講習では、話すように読む方法やアクセント辞典でアクセントの付け方を学ぶことができます。

録音をする前には原稿を一字一句じっくりと読むので、自然と知識を増やすことができます。コロナ禍前には、目の不自由な利用者さんとの懇談会も行っていて、実際に聞いてくれている方との交流は、とても充実した時間でした。利用者さんから「江別市に引越してきて、広報えべつのCDを聞いて、はじめて江別市民になれた気がした」と聞いたときは、とてもうれしく、やりがいを感じました。

まちの灯の皆さん
(広報えべつ担当)



▼音声版の広報えべつは、市ホームページからも聞くことができます

希望する方には無料でCDを発送しています。また、令和4年7月号から、目の不自由な方だけでなく、多くの人が利用できるよう、市ホームページでも公開しています。

下のQRコードからご確認ください。



広報えべつ が発行されるまで

広報えべつはどのようにつくり、発行されているのでしょうか。

企画

年に数回掲載している特集の内容を企画したり、市役所の各部署から記事を募集し、ページを構成します。

「みんなのひろば」に掲載する記事は、市内の市民団体から募集しています。

作成・取材

広報広聴課の職員が必要に応じてインタビューや写真撮影を行い、デザインやレイアウトを工夫しながら専用のソフトウェアを使って紙面を作ります。一部の紙面（お知らせなど）の作成は、業者に委託しています。

印刷・配布

作成された紙面は、印刷会社で印刷製本され、配送業者を通して、毎月末日までに、各自治会の区長や班長へ届けられます。区長や班長に届いた後は、毎月6日までに各世帯に配布していただいています。（広報えべつには、7日以降の内容を掲載しています）

市民協働の観点から地域の皆さんに協力していただきながら配布していますが、自宅に届かない方のために、駅、スーパー、コンビニ、公共施設など市内120か所以上に設置しています。自宅に届かない方は、お近くの施設やよく行くお店で入手していただきますようお願いいたします。広報えべつが配架されている施設などはホームページに掲載していますので、ご覧ください。



※ 音声CDと点字の広報えべつをご希望の方は、障がい福祉課（☎381-1031）までご連絡ください



〈点字ろくの会〉点字の印刷

【点字で伝える】 点字ろくの会

どんな活動をしていますか

活動内容は、広報えべつなどの市の発行物の点訳や依頼された本の点訳、市が開催している点字講習会の講師などを行っています。

広報えべつの点字版の作成は、担当を交代しながら、読

みやすく分かりやすくなるよう工夫しています。

会員は2年間の養成講座を受講した方がほとんどですが、点字に興味があれば誰でも活動に参加できます。点字は覚えることが多く、点訳をしながら日々勉強したり、会員同士で教え合いながら活動しています。

点訳はパソコンの点字ソフトで打ち込みます。打ち込んだデータはメールで送ったり、製本して郵送するなどして、利用者さんに届けています。製本された本は、情報図書館で読むことができます。

活動の魅力は何ですか

本の点訳をするので、本が好きで始めた方が多く、普段

読まない本やさまざまなジャンルの本と出会うことができます。

点訳するために一字一句丁寧に2〜3回読んでいます。また、社会との関わりを持ちたい、誰かの助けになりたいとの思いから始めた方もいます。

会の目標は、「目の不自由な人に少しでも喜んでもらいたい」ということ。一人ひと



〈点字ろくの会〉点字講習会

りの力は小さくても、集まることで大きな力になると思います。これからも活動を続けていくために、新しい会員も募集しています。

▼点字講習会を受講してみませんか

市が開催している点字講習会です。月2回、基礎講座と応用講座をそれぞれ1年間かけて学びます。受講者は毎年3月に募集します。詳しくは広報えべつ3月号に掲載予定です。

広報えべつは、これからもボランティアの皆さんの力を借りて、市の情報を伝えていきます。